

中国が持続可能な航空燃料（SAF）の輸出に向かう

◆ SAF製造4社に輸出許可、SAFのカーボンフットプリント算定基準も策定

中国では2025年10月、山東三聚生物能源など3社が持続可能な航空燃料（SAF）の輸出許可を得た。4月に連雲港嘉澳新能源が最初の輸出許可を得ており、4社合計の輸出許可数量枠は約120万トンにのぼる。山東三聚生物能源は北京海新能源科技の子会社で、廃食用油や動植物油脂などを原料とするHEFA（Hydroprocessed Esters and Fatty Acids）技術でSAFを生産する。EUでは25年1月に「ReFuelEU Aviation」規則が施行され、域内発のフライトでSAFの2%以上混合が義務付けられており、これらはEU向けの輸出になるとみられる。

SAFの輸出許可を得た4社（親会社、所在地、数量枠）

連雲港嘉澳新能源：浙江嘉澳環保科技	江蘇省連雲港市	37万トン
山東三聚生物能源：北京海新能源科技	山東省日照市	15.8万トン
山東海科化工：海科集団	山東省東營市	37万トン
易高環保能源（張家港）：EcoCeres（香港）	江蘇省張家港市	26～30万トン

中国民用航空局（CAAC）は8月、HEFAで製造されたジェット燃料成分についてのカーボンフットプリント（CFP）算定基準を公表した。基準策定には上記4社のほか、中国石化や四川金尚環保科技、河南君恒実業集団生物科技などのSAFメーカーも参画している。8月に航空会社やSAFメーカーなどから構成されるSAF産業連盟も設立されており、SAFの商用化、市場環境の整備が進みつつある。

◆ EASAが「ReFuelEU Aviation」年次報告書を発表、欧州企業は中国で技術提携

EASA（European Union Aviation Safety Agency：欧州航空安全庁）は25年10月、「ReFuelEU Aviation」に関する年次報告書を公表した。24年のEU域内の航空燃料供給量3,210万トンのうちSAFは19.3万トンで混合率は0.6%、燃料価格は通常のジェット燃料が734ユーロ／トンでSAFは2,085ユーロ／トンだった。廃食用油などSAF原料の約70%は輸入しており、輸入元1位は中国（38%）である。

中国が自国でSAF生産に乗り出し、EUへのSAF原料供給が減る可能性も指摘される。山東海科化工のSAF製造は仏AxensのHEFA技術「Vegan」が導入されており、デンマークTopsoeは25年に中国企業4社と「Hydroflex」技術で提携している。中国からEUへは、SAF原料からSAFそのものの輸出に変わりそうだ。【長谷川雅史】